

日産車体株式会社
2022年度
第2四半期決算説明

(2023年3月期)



2022年11月

決算サマリー

当社グループを取り巻く環境は、半導体不足に起因する一部の部品供給問題の影響や材料及びエネルギー価格の値上げ影響等により、厳しい状況が続いた。部品供給問題により売上台数が減少したものの、乗用車の売上が伸びた結果、増収となった。損益面では、材料の値上げ影響等により減益となった。

売上台数

乗用車の台数は増加したものの、部品供給問題により主に商用車が減少したことで、前年同期と比べ1.5%減少の60,491台

売上高

「AD」や「NV200バネット」等の商用車の台数減少の影響を大きく受けた一方で、「パトロール」や「インフィニティQX80」等の乗用車の売上が伸びた結果、157億円増加の1,309億円

営業損益

材料の値上げ影響等により4億円悪化の10億円の損失

経常損益

2億円悪化の6億円の損失

親会社株主に帰属
する四半期純損益

3億円悪化の5億円の損失

2022年度 第2四半期 決算 <累計>

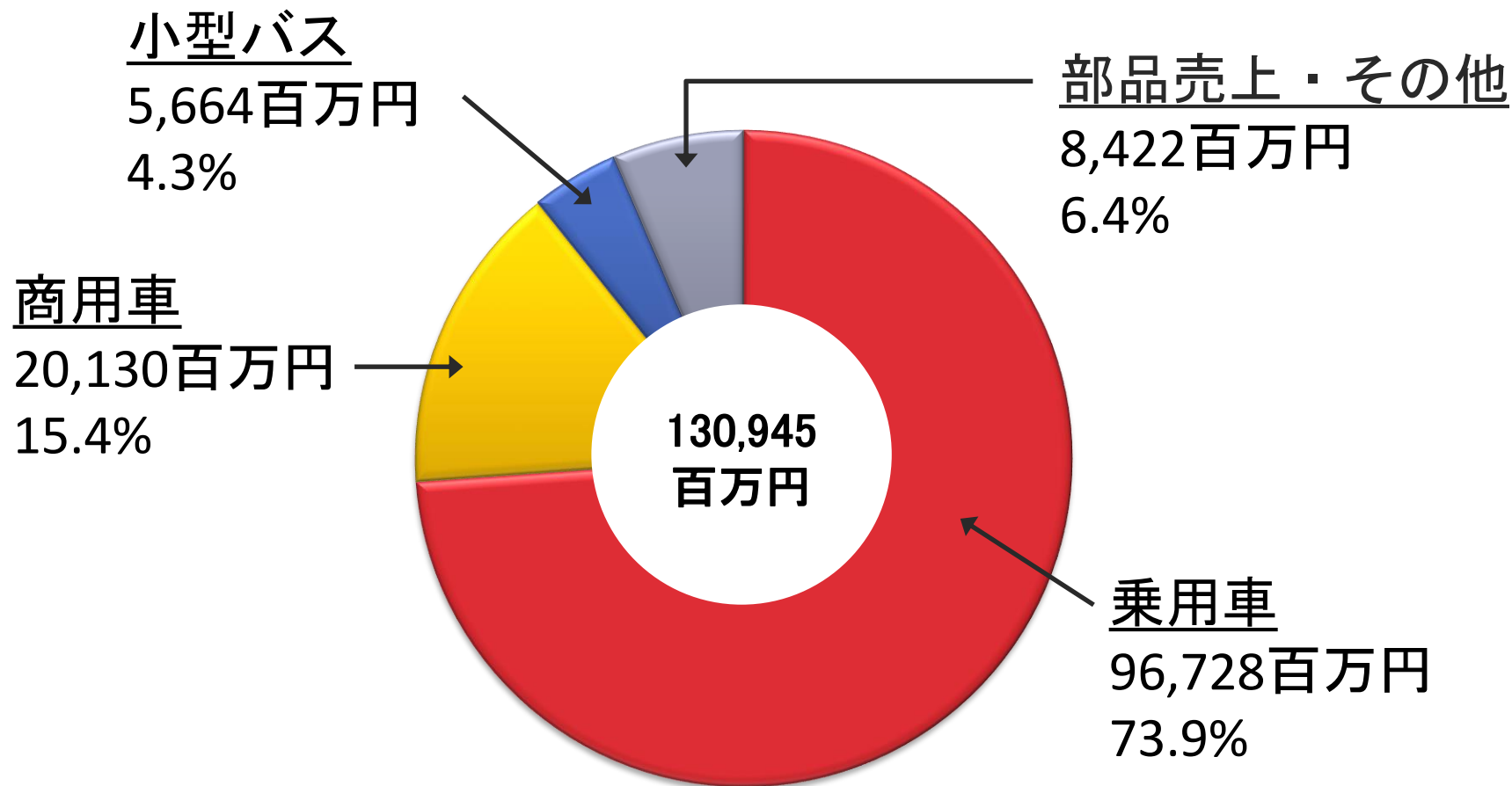
業績ハイライト

単位:百万円

	2021年度 第2四半期 (2021/4~9)	2022年度 第2四半期 (2022/4~9)	増減額(率)		通期計画
売上高	115,151	130,945	15,794	13.7%	314,300
営業損益	▲ 544	▲ 1,040	▲ 496	-	9,500
経常損益	▲ 339	▲ 633	▲ 294	-	9,900
親会社株主に帰属 する四半期純損益	▲ 211	▲ 544	▲ 333	-	6,400

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。2022年3月期第1四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、当該会計基準等の適用により大きな影響の生じる売上高は、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

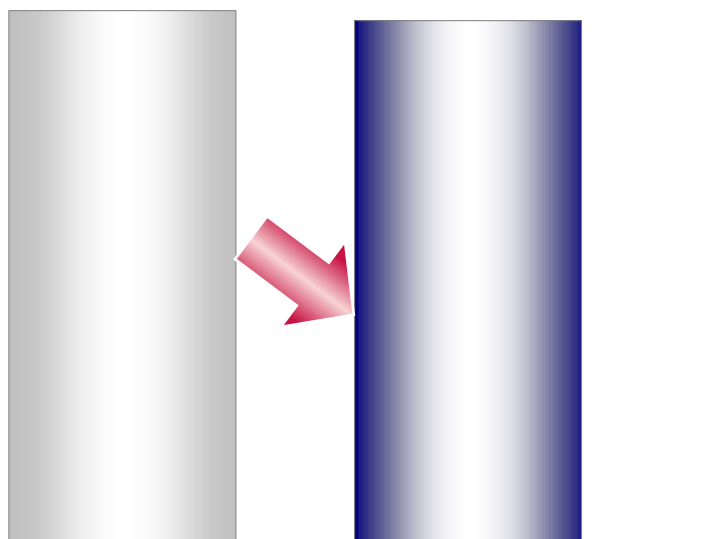
品目別売上高構成比



売上台数

乗用車の台数は増加したものの、部品供給問題により主に商用車が減少したことで、前年同期と比べ1.5%減少の60,491台

61 (千台) 60 (千台)

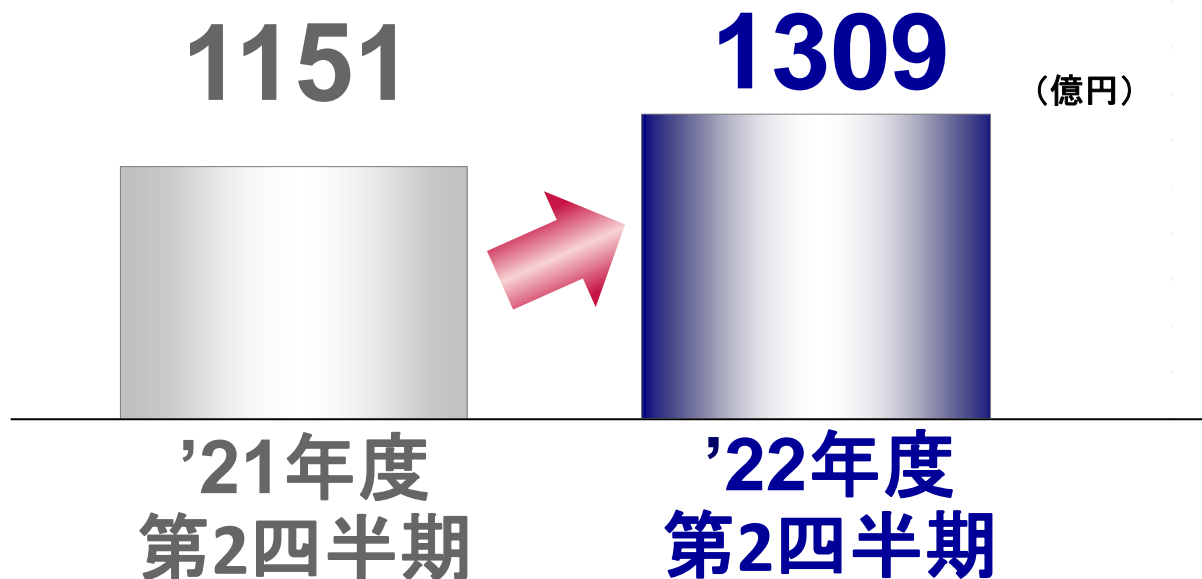


'21年度 第2四半期 '22年度 第2四半期

	前期実績	当期実績	増減率
乗用車	32	38	17.8%
商用車	26	18	▲30.6%
小型バス	3	5	32.5%
合計	61	60	▲1.5%

売上高

「AD」や「NV200バネット」等の商用車の台数減少の影響を大きく受けた一方で、「パトロール」や「インフィニティQX80」等の乗用車の売上が伸びた結果、157億円増加の1,309億円

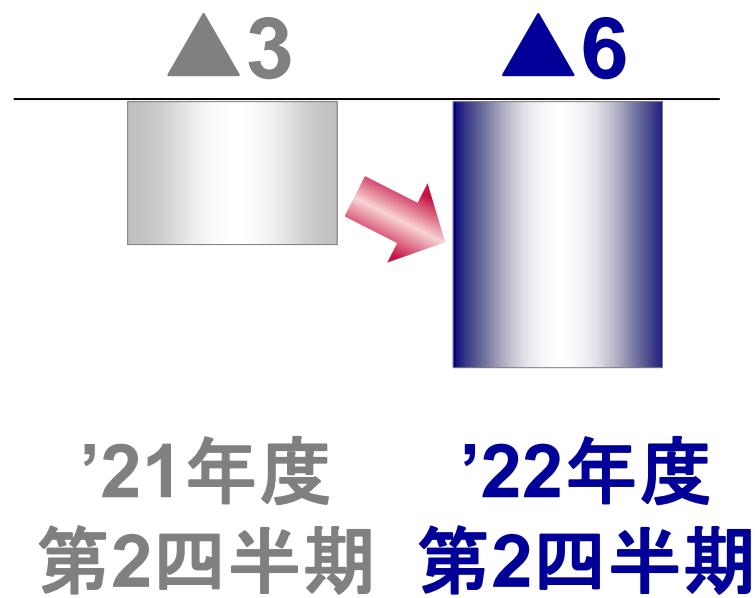
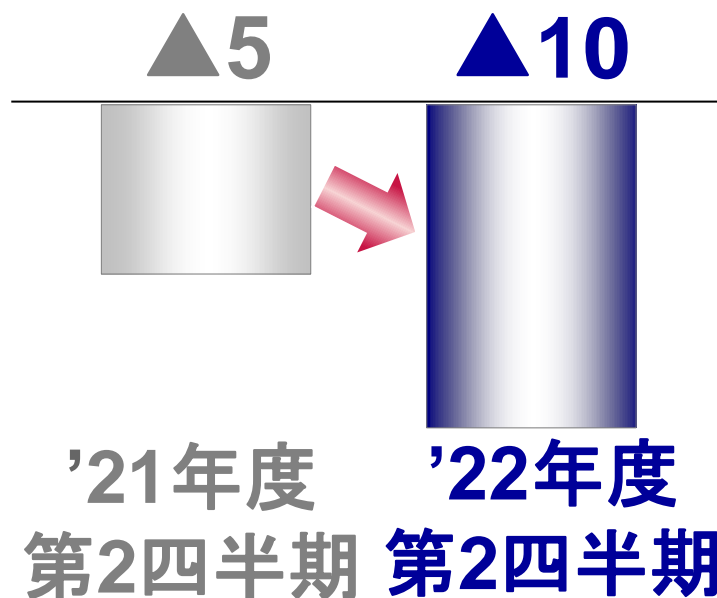


営業損益／経常損益

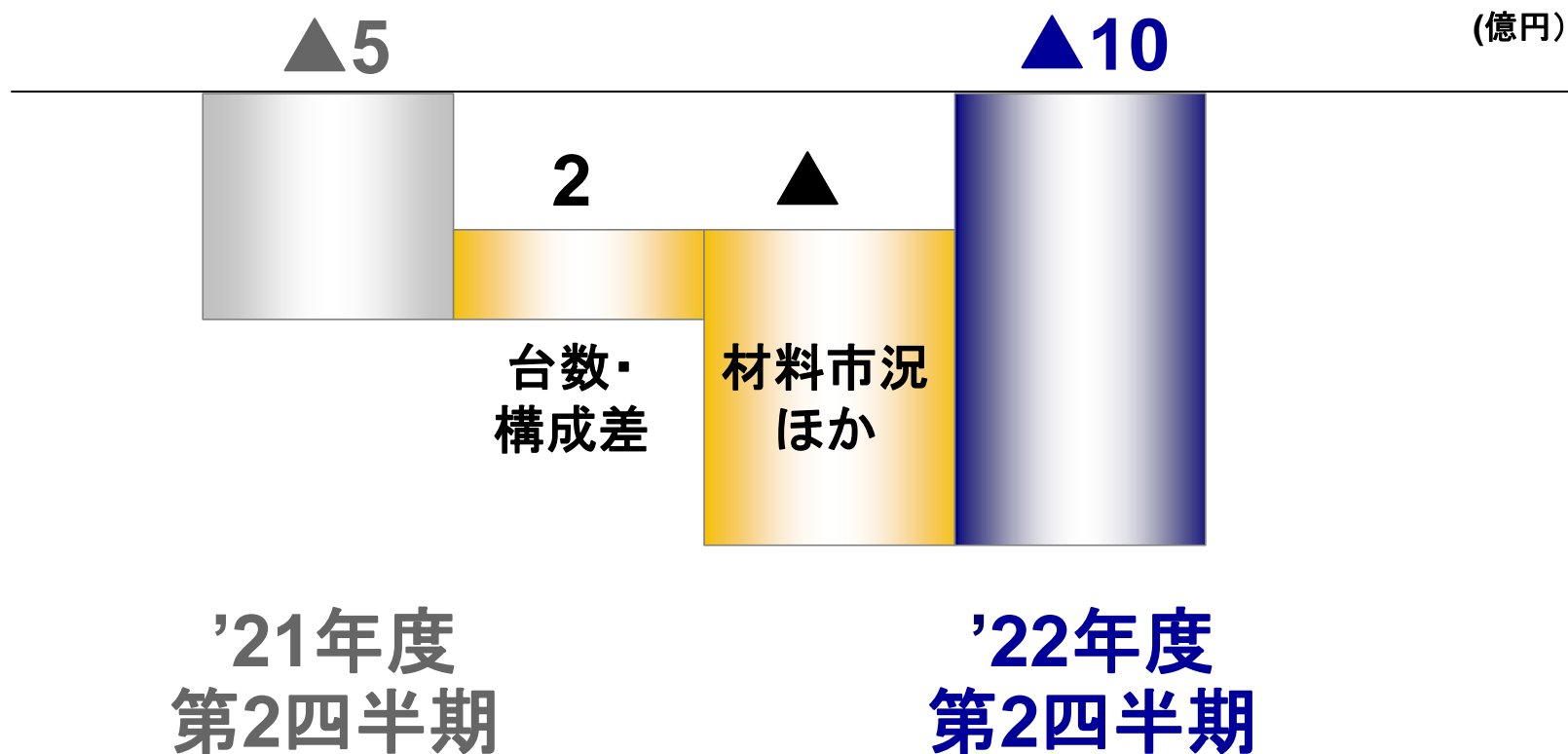
営業損益は材料の値上げ影響等により4億円悪化の10億円の損失
経常損益は2億円悪化の6億円の損失

営業損益 (億円)

(億円)



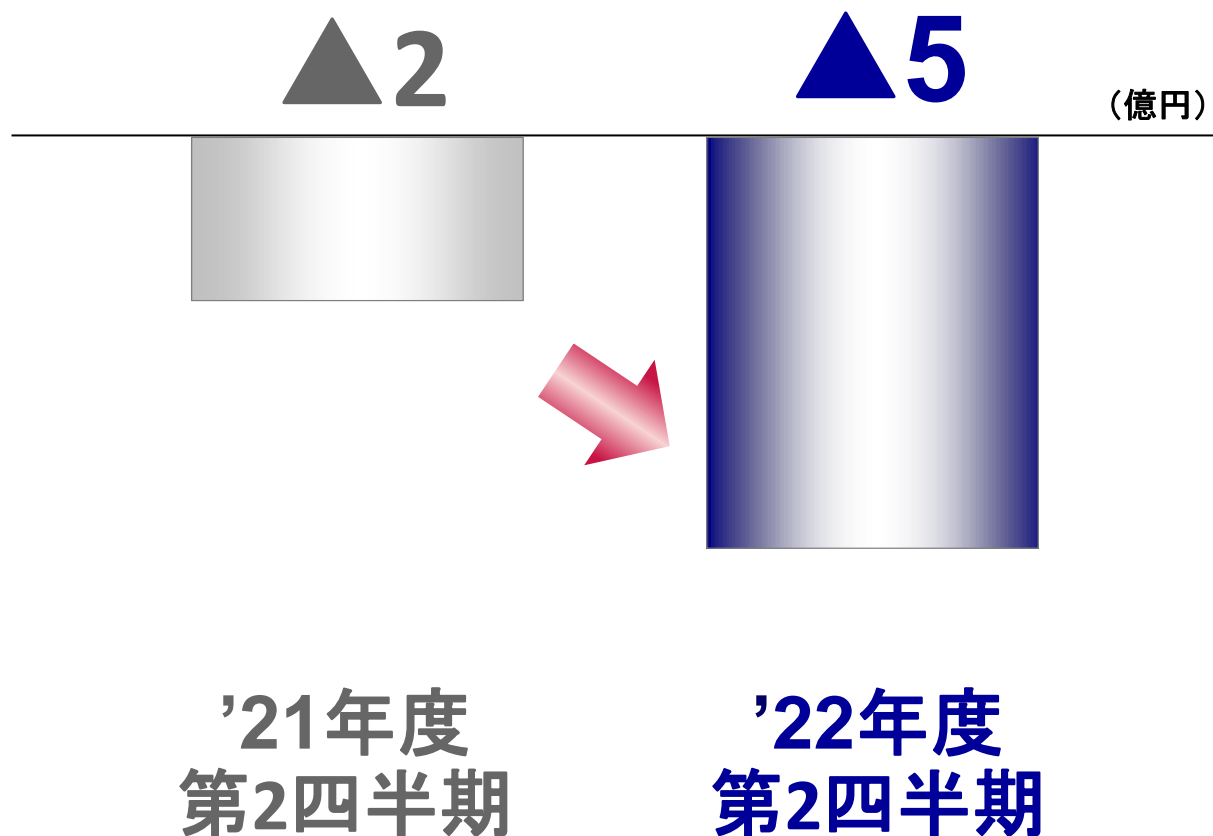
営業損益の増減要因



2022年度 第2四半期 決算 <累計>

親会社株主に帰属する四半期純損益

3億円悪化の5億円の損失



株主還元

継続的な安定配当を基本とし、年間13円を予定

■ 中間配当金 ■ 期末配当金

